

最上の子どもたちのために

未来へ

紡ぐ

- ◆ 最上教育事務所指導課通信
- ◆ 令和8年10月6日
- ◆ 最上教育事務所指導課
- ◆ 第5号

初任者研修 体験活動研修

8月6日(木)、7日(金)

神室少年自然の家、最上広域市町村圏事務組合教育研究センターを会場に、小・中学校等及び新庄養護学校の初任者が参加し、2日間の体験活動研修を行いました。野外炊飯やフリスビーゴルフ、モルック体験などの活動を通して、校種を越えた初任者同士の交流を深めることができました。また、活動のねらいを意識しながら研修に取り組むことで、主体的・協働的に学ぶ「参加者」の視点と、子どもたちの豊かな体験活動を支える「指導者」の視点の両面から、多くの学びを得ることができました。



～参加された先生方の声～

- ・ 2日間の研修を通して、体験活動を行う意義や注意点、配慮事項について学ぶことができました。指導者と参加者の両方の視点に立って考えることで、実際に体験することの大切さを改めて感じました。
- ・ ねらいを明確に持つことや振り返りの重要性を学びました。子どもの学びを支える姿勢を意識し、楽しいだけで終わらず、学んだことを次につなげられるように工夫していきたいです。
- ・ 様々な校種の先生方とたくさんコミュニケーションを取ることができ、同期の仲が深まりました。これから一緒に頑張っていく仲間ができたように感じ、とても嬉しく思いました。

第1回最上地区特別支援教育研修会

8月27日(木)

植草学園大学 佐藤 慎二 名誉教授より「『気になる』行動の理解と支援の実際～どの子どももつまみこむ保育や教育の具体的な展開～」と題してご講演いただきました。講義の合間には、障がいによる困難さの模擬体験や学級の隙間時間に活用できるミニネタを体験しながら、ユニバーサルデザイン・インクルーシブ教育と合理的配慮について知見を深めました。



【講演より】

- ・配慮を要する子どもには「ないと困る」支援は、どの子どもにも「あると便利で役に立つ」支援である。
- ・「こだわり」は減らせてもなくせない。「良いこだわり」を育てる逆転の発想が大切!
- ・「楽しさ・やりがい」のある活動を増やすことが「問題行動」解決の一番の近道!
- ・学校園所は病院ではない!「好き」(興味関心)を育み「得意」を伸ばす場である!

～参加された先生方の声～

- ・誰にとっても大切な支援の基本を教えてくださいました。子どもたちの持ち味を大切にしながら、学校での安心感を作っていきたいです。
- ・佐藤先生の話のテンポがよく、お話に引き込まれました。事例や手遊びも盛りだくさんで、楽しく受講することができました。
- ・困難を実際に体験することで、困り感を感じている子どもたちの思いを知ることができました。UD・インクルーシブ教育における対応について、具体的な姿を示しながら教えてください、非常に為になりました。



山形県幼児教育研究協議会(庄内・最上地区) 7月30日(木)

久保山 茂樹先生(国立特別支援教育総合研究所 ウェルビーイングS&Iセンター)より、「インクルーシブな環境で培う子どもの資質・能力」と題してご講演いただきました。子どもの「できないこと」ではなく、一人一人の「よさや得意、今ある力」に着目し、多様性を認め合う共生社会の担い手を育む保育・教育の重要性について学びました。併せて、認定こども園若葉幼保園(鶴岡市)、新庄幼稚園認定こども園から幼保小接続をテーマとした実践研究が発表され、100名を超える参加者は学びの連続性を支える取り組みへの理解を深めました。



～参加された方々の声～

- ・子どもの気になる姿を伸ばしてあげようと無意識に評価の眼差しで見ていることがあるかもしれないと気づくことができました。できない事を伸ばすのではなく、今できている姿を伸ばしていくことができるようにかかわっていきたくと思いました。
- ・気になるところによく目が行きがちになる日々ですが、その子にも面白いところ、感心させられるところ、かわいいと思う瞬間があるなぁと感じることもたくさんあります。集団生活の中で見ると目立つところがあっても、個として見た時にどんな良いところがあるかに目を向け、その力を発揮できる環境づくりを意識していきたいと思いました。

確かな学力育成支援(M-T-E-P)の活用状況

授業研究会に向けた授業づくりの相談や、校内研究における助言等に活用いただいています。

A: 若手育成型

新庄小学校、日新小学校、大堀小学校、向町小学校、鮭川小学校、新庄中学校、日新中学校、最上中学校、明倫学園

B: 学校サポート型

金山中学校、真室川中学校、明倫学園

(9月30日時点)